

第3回 作手地域協議会 地域自治区予算検討で出された意見

柱	班	現状の課題	目標とする姿やゴール (こうなりたいね。これがよいよね。など目指す姿を具体的に)	そのために必要な取り組み
柱1 地域の特性を守り活かし、活気あふれるまちづくり (農業・林業・自然環境)	1 班	○自然環境について	○桜やいろんな花を植えたい。	・地元で補助事業を使って実施
		○有害鳥獣が多い	○様々な獣対策して、少しでも減る環境を目指す。なんとかしたい！	・檻を購入し、貸出する ・狩猟免許の取得に補助金を出す
		○旧道の管理ができていない	○管理者が誰か確認し、管理してもらう。	
柱2 共に学び、育ち、人が輝くまちづくり (共育・住民交流)	2 班	○地域参加型のイベントや年齢問わず触れ合える場が少なくなった。 ○定期的なイベントがない ○コロナ禍のままの流れで行事に活気がなくなった	○花火大会 ○(夏)流しそうめん、(冬)クリスマス会 ○住民大運動会	・企画の立ち上げ、運営 ・住民への周知、協力 ・チラシ、ポスター作成 ・場所の確保
柱3 助け合い支え合い、安心して暮らせるまちづくり (安心安全・防犯防災)	3 班	○「涼風の里」の屋根崩壊の危険に伴う使用禁止状態	○人が安心して集まれる場所の整備 ○関係人口を有効に使い、地域の観光収入もあてにできる	・「涼風の里」のトイレ屋根修繕
		○転入者など付き合いが希薄で困ったときに頼れない	○「結(ゆい)」の精神を現代版にアップデートした共助	・お助けチケットの発行
		○土砂災害で孤立集落となる恐れがある	○各集落単位で数日～1週間分の食料、飲料水、簡易トイレ、医薬品を分散整備する ○防砂拠点の整備(防災ヘリの発着可)	・個別避難計画を作成 ・土地の確保
		○交流の希薄化	○夏祭り等の開催で地域の人たちがつながる	・資金援助は「×」⇒地域ブースの提供
	4 班	【空き家】 ○樹木が道路に出ている ○動物が住みついている ○朽ちた家が崩れそう	○道路等、公共物に迷惑をかけない※一時的な対応	・情報共有(マップ・リスト)の作成 ・相談先のリスト
		○高齢者の一人暮らし、付き合いをしていない人もいる	○独居・高齢者生活を支える仕組みづくり	・倒れているのか、寝ているのか ・独居老人の見守り、連絡先
		○避難所(開成小学校)の水道電気使えない	○いざという時に避難所で生活できるよう整備する	・開成小以外の避難所も調査(水道、電気、トイレなど)
		○大災害時に保護者が子どもの迎えに来られない、そのまま避難所生活も…	○大災害時に動ける小中学生 ○こども園、小、中、支所が近くにあるメリットを生かす	・合同避難訓練→避難所→宿泊体験

柱4 関わる人や訪れる人を増やし、次世代へつなぐまちづくり (情報共有、発信・観光)	5 班	○作手地区の良いものを地元の人知らない(発信力がない) インスタ、動画の広報が下手	○発信力の向上	・観光大使のマジラブ村上さんやアンパンマンの声優、作手出身者で活躍されている方を呼んで、お店や名物料理など(欧州でグランプリを獲った鈴木製茶など作手の良いもの) 発信する ・作手地域の年度ごとのイベントを動画などで年度初めに紹介する
		○よその人たちばかり(作手地域の人より地域外の人がたくさん来る) ○地元の人たちがより楽しめるように ○小中高生の学びの場の整備		・世界ラリー誘致 ・涼風の里のトイレ屋根修繕 ・開成小の電気設備整備 ・歴史資料館の整備(電気、エアコンなど) ・リフレッシュセンターのポータブルのプラネタリウム整備 ・夏祭り(サンマルイチ、サマカン) 作手住民のためのイベント、産直販売、物産展